

第1回 東紀州広域ごみ処理施設整備基本計画策定委員会 議事要旨

日時：令和3年10月12日（火） 10:00～11:50

場所：尾鷲市民文化会館ギャラリー兼小ホール

出席者：委員：高橋委員長、加藤副委員長、濱田委員、西田委員、小林委員、塩津委員、中野委員、室谷委員、吉澤委員、濱中委員、宮本委員、岡田委員、芝委員
事務局：東紀州環境施設組合 福屋事務局長、井上係長、阪井主任
国際航業株式会社 岡田、森田、栗原

○開会

○委嘱状交付

○管理者挨拶

○委員紹介

○委員長選出

事務局：委員長は委員からの互選で選出することとなっている。推薦はあるか。

委員：本日が初めての顔合わせである。事務局案があれば示してほしい。

事務局：高橋委員を推薦する。高橋委員は廃棄物処理を専門分野として、長年教鞭を振るわれており、他自治体でも委員を務めておられた。

委員：では、高橋委員を推薦する。

事務局：高橋委員の推薦があったが、いかがか。

一同：異議なし。

事務局：それでは高橋委員に委員長をお願いする。高橋委員、委員長席へ移動をお願いします。

委員長：挨拶

副委員長は加藤委員にお願いしたい。

事務局：加藤委員は副委員長席へ移動をお願いします。

○諮問

○委員会趣旨説明、資料確認

○議事（1）東紀州広域ごみ処理施設整備基本計画等策定スケジュール

事務局：資料4説明

委員長：意見・質問はあるか。

委員：令和5年1月頃にパブリックコメントを実施の予定となっているが、施設基

本計画の内容が固まるのはいつの予定か。

事務局：令和4年4月頃には、施設整備基本計画の素案を委員会に提示できる予定である。

委員：公害防止基準はいつ決まるのか。

事務局：第3回策定委員会では提示できると考えている。

委員：パブリックコメントを経て決定することとなると思うが、検討経緯は適宜公表していただきたい。

事務局：令和4年4月頃には施設整備基本計画の素案ができる予定なので、その後、5市町の住民説明会を行う考えである。また、PFI導入可能性調査報告書案ができて、事業方式が定まってくれば、改めて施設整備基本計画案をもって、住民説明会を行いたい。

委員：委員会の議論の途中経過も周知するようにしてほしい。

事務局：公表するようにしていきたい。

○議事(2) 東紀州広域ごみ処理施設整備基本計画策定委員会開催計画

事務局：資料5説明

委員長：意見・質問はあるか。特にないようなので、次の議題の説明をお願いします。

○議事(3) 東紀州広域ごみ処理施設整備基本計画の記載内容について

事務局：資料6説明

委員長：意見・質問はあるか。

委員：ごみ処理施設やし尿処理施設は迷惑施設と受け取られる場合があり、他自治体では周辺住民の反対等で事業が止まってしまう例がある。周辺環境への影響に配慮し遅れることのないよう進めてほしい。

事務局：生活環境影響調査結果は公表しながら進めていきたい。

委員：住民の理解を得るため、安心・安全な施設を整備してほしい。

委員：各市町のごみ処理施設は老朽化しており、本施設は必要な施設である。住民の理解を得て、本事業を成功させてほしい。

委員長：他に意見・質問はあるか。安心・安全というのは重要なことであるので、しっかり確認いただきたい。

委員：基本構想では令和9年度の減量化目標が記載されている。減量化目標を達成し、かつ人口が減少するとして将来ごみ量は推計されているか。

事務局：将来処理量の推計は、現状推移を基にしている。

委員：ごみ質については地域特性によるかもしれないが、非常に低い。実測を行うなど、ごみ質の設定には十分配慮すべきである。

また、建設予定地は、浸水域に該当するか。

事務局：津波浸水域、河川氾濫域ではない。

委員：発電するなら、逆潮流することとなると思うが、建設予定地周辺の送電線は逆潮流可能でよいか。

- 事務局：今後の確認となる。
- 委員：逆潮流の可否は処理方式決定の前提条件であるので、処理方式決定までにご確認いただきたい。
- 事務局：確認する。
- 委員長：中部電力に確認をお願いする。
- 委員：基本構想のごみ量は5市町分が記載されていると思われるが、三重県の平均は947g/人日であり、本地域は少し多い。一般に沿岸部の自治体の1人当たり排出量が多い傾向にあるが、ごみ量の推計は事務局で十分検討してほしい。食品ロスについて、国は2000年から2030年で事業系、家庭系ともに半減させる計画であり、三重県としても10%削減が目標である。
- プラスチックについては、プラスチック資源循環促進法が令和4年度に施行され、製品プラスチックのリサイクルが開始する。製品プラスチックの資源化も合わせてCO2削減を進めていくこともやってはどうか。このような動きも、ごみ質、ごみ量に関係してくるところである。
- 事務局：しっかり検討する。

○議事(4) サウンディング型市場調査

- 事務局：資料7説明
- 委員長：意見・質問はあるか。
- 委員：客観性を持たせるためにも、サウンディングで提案されない処理方式についても整理してほしい。
- バイナリー発電が全ての処理方式で記載されているが、バイナリー発電を導入する考えか。
- 事務局：提案を否定するものではないということであり、事務局として積極的に導入したいという意味ではない。国の交付金制度の適用については、複数メニューがあり、どれが一番有利かを見定める。その中で、国では二酸化炭素削減をもってエネルギー回収率を設定しているので、例えば、エネルギー回収率が達成できない時にバイナリーで補うという提案が出てくる可能性がある。
- 委員：循環型社会形成推進交付金の活用であれば、過疎地域の要件を満たせばプラントの熱利用も含めた熱回収率10%で交付要件を満たすことが可能である。
- 事務局：例えば、自家発電補給で運営費が下がる等、イメージとしては、そういったところをみる。バイナリー発電でプラント運転に要する電気を少しでも補給して買電を下げる提案が出てくる可能もある。
- 委員：それは技術的な評価をするか。
- 事務局：おそらく価格面の評価を主体にする。
- 委員：建設費、運営費が下がらないと意味がない。技術的な提案の中身と運営費はリンクしない。本来はリンクすべきである。
- 事務局：サウンディングで提案内容について確認する。
- 委員：焼却残渣の資源化が可能かについては、メーカーだけでなく、再資源化業者

にも確認しておく方がよい。構成市町の最終処分場の状況はどうなっているか。

事務局：各市町処分場残余容量は切迫しており、広域化にあたっては、資源化等の検討が必要である。

委員：県内の状況は資源化が 28 市町で、1 市だけが最終処分している。民間のセメント会社等が資源化受託している。熔融スラグを使用した製品は三重県認定リサイクル製品であり、排出した市町が公共工事で使用していく必要がある。

委員長：十分な検討をしていく必要がある。

○議事 (5) 処理方式の評価項目

事務局：資料 8 説明

委員長：意見・質問はあるか。

委員：評価項目について公害防止基準遵守となるが、具体的にはどのように評価するのか。

事務局：排ガスの窒素酸化物や硫黄酸化物の濃度、敷地境界での振動規制法、騒音規制法の数値の遵守、大気は基本構想で定めた自主規制値を達成できるかを確認する。

委員：基本構想では法令や周辺施設の状況を整理しているものであり、決定はしていない。公害防止についてはできるだけ重点を置いてほしい。その他周辺への影響なども説明できるようにしてほしい。

事務局：十分踏まえて検討していきたい。

委員：処理方式で公害防止基準値が変わることはない。その処理方式でも技術的に厳しい基準の適用は可能であるが、費用が高くなることになる。処理方式+副生成物処理方法を併せて確認する必要があるのではないか。

事務局：処理システムとして、処分まで完結できるよう確認を行う。

委員：ごみ質の懸念が出ているが、今後 30 年間でごみ質が変わる可能性はあるのか。

事務局：その他プラを資源化していないところは、基本にごみ質が高い。また、水産業が盛んな地域は低い傾向がある。委員から説明のあったプラスチック循環のような施策が適用されると現状より低位発熱量が下がる傾向になる。その場合、発電設備として蒸気タービンを設置しても、タービンを回転させる蒸気を得られないこととなる。

委員長：慎重に検討していく必要がある。

委員：事業系ごみの割合が少ないにもかかわらずごみ質が低いというのは、本地域では家庭でも海鮮物の消費が多いのか。

事務局：ご理解のとおりと思う。

委員：35 t/日・炉×2 炉程度の施設規模となるが、このごみ質でも発電可能か、サウンディングで確認する必要がある。

委員：災害ごみを除く通常ごみだと 65 t/日の施設規模であり、更に厳しい。メー

カーの提案についてしっかり確認してほしい。

20年間維持管理ということだが、20年後のごみ量はどれくらいか。

事務局：20年後のごみ量は、これから検討する。

委員：処理方式の検討においては分かりやすい説明をお願いする。

委員：財政が厳しい中で整備することとなり、人口もますます減少することとなる。71 t /24h の施設を整備して、ごみ量が足りない、過剰な施設だということにならないよう。三重県は RDF 施設で大きな負担を背負った経験がある。電力会社等についても状況を確認しておくことが重要である。

○その他

事務局：第2回東紀州広域ごみ処理施設整備基本計画策定委員会開催は、令和4年2月2日 14時からを予定する。その他、1月に施設視察を予定している。

○閉会